

2026年度
短期留学成果報告書

| 学年 | 専攻 (楽器等名) | 留学先 | 期間 |
|--|--------------|--------------|-----------------|
| 修士2年 | 声楽 | ギルドホール音楽演劇学校 | 2026年4月－5月(3週間) |
| 1. 実施概要(具体的に) | | | |
| <p>土日は時間が少し変わりますが、平日は毎日練習を9時から10時と17時から18時までしました。 授業は歌曲の授業とレパートリー授業に聴講として参加しました。 毎週火曜日はドラマの授業が3時間入っていました。 コレペティの授業が週に1、2回あり個人声楽レッスンが週に1回くらいありました。 また3週間の中2回声楽の教授とメンタリング時間がありました。 授業以外にも学内の演奏会を3公観たり、学内器楽ファイナルコンクールも実施しており観に行けました。 そして学外でもオペラの公演を観たり、声楽ファイナルコンクールを観ることができました。</p> | | | |
| 留学を通じて自身が得た成果 | | | |
| <p>*歌曲授業 ・英語の歌の授業を受けました。教師と生徒が自由に意見を交換し、上下関係ではなく水平的な関係を維持する小さなグループセッションでした。お互いの歌を熱心に聞き、自分の演奏だけに集中するのではなく、励ましを与える姿が良かったです。 ・イタリア語の歌のレッスンを受けました。音楽のリズムに真に「乗り」ながら、そのような喜びを持って演奏する生徒に深い感銘を受けました。彼らの音楽性は聴衆にはっきりと伝わりました。喜びを込めて歌うことは本当に大切です。 ・修士レベルのレパートリークラスに参加しました。授業中、学生たちが教授と一緒に積極的に意見を交わす姿を見ることができて素晴らしかったです。</p> <p>*演劇授業 ・パートナーと一緒に踊ることで、相互の配慮と協力が大切ということを学びました。 ・一つの単語がどのように多様に表現されるのか、他の人が演技する姿を見ながら多様な視点を鑑賞することができました。 ・ジェスチャーは支えであり、本公演に影を落としてはならないことを学びました。</p> <p>*レッスン ・コレペティ: 言語の発音と表現を中心にレッスンを進めてくれた。30分という短い時間だったが、回数が多くて良かったです。 ・声楽: 二人の先生は発音を中心にレッスンを進めてくださり、今まで意識していなかった部分を教えてくださり、さらに良い音が出るように教えてくださいました。</p> <p>*リサイタル 5つの言語の曲を先生と学生さんの前で歌えることができとても楽しかったです。最後の2曲は韓国歌曲とイギリスのアリアで絞めをしましたが、現地で現地の言語のアリアを学ぶことができ嬉しかったのと、母国語の歌曲を伝えることができ意味深かったです。</p> <p>*メンタリング時間 自分自身を知ることが重要で、自分が上手にできることを知り前に進むことが大事ということを学びました。</p> | | | |
| 3. 反省点 | | | |
| <p>週に一度しか修士の友達に会う時間がなくて残念でしたが、もう少し積極的に友達と話をして会って食事などをすればよかったと思いました。他の学科の友達とも仲良くなりましたが、声楽科の友達とは授業時間外に話がうまくできず、残念でした。しかし、リサイタル公演の時に観に来てくれて本当に嬉しかったです。 レッスンを受けるときはできるだけ自分で英語で質問していましたが、時々英単語が思い出せず、伴奏者の先生が日本人でそばで助けてくれたのですが、助けなしで自分がしたい質問をすればよかったと感じました。 リサイタル公演中に小さなミスをして残念でしたが、これもまた勉強になり、ミスの後も最後までうまくまとめられて良かったです。リサイタルがあることを留学いく1週間前くらいに知ってしまい時間もなかったのですが、もう少し曲の準備ができたなら良かったなと思いました。 リサイタルの準備や練習時間で聴講できる授業の参加が少なかったのですが、もっと積極的に参加すれば良かったなと思いました。 しかし全体的に充実してとても楽しく貴重な時間を過ごすことができた留学でした。</p> | | | |
| 4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等) | | | |
| <p>先生方はヒールを履くことをあまり好まれないので、きちんとした単靴や厚底の低いヒールを用意するのが良いと思います。それ以外は自分の薬や万が一の寒さに備えて、カイロを用意した方が良いでしょう。 事前学習としては英語の勉強をできるだけ頑張っていくとレッスンや友達との会話と途中で困ることがないと思います。 また、最後にリサイタルをするので3週間だと時間が短いのでその前からある程度曲目を考えていた方がよいと思います。</p> | | | |

2026年度
短期留学成果報告書

| 学年 | 専攻 (楽器等名) | 留学先 | 期間 |
|------|--------------|--------------|-----------------|
| 修士1年 | 独唱研究領域 | ギルドホール音楽演劇学校 | 2026年4月-5月(3週間) |

1. 実施概要(具体的に)

- ・声楽の教授(2人)からのレッスン60分 計6回
- ・コレペティの先生のレッスン30分 計3回
- ・演技の授業週一回(先生のお題から短い演技。ファウストの伝記の一部をグループになり、朗読しながら演技をつける。)
- ・ダンスの授業週一回(ワルツやロシアなどのダンスを二人一組になり踊る。)
- ・声楽教授主任とのメンタリング(進路相談、コンクールのことなど、聞きたいことを何でも相談)
- ・20分間のファイナルコンサート(全て暗譜、母国語と英語の曲を一曲ずつ入れること。演奏の前や曲間に自己紹介、曲の紹介をすること。)
- ・伴奏者とのリハーサル(一週間前、前日に、各一時間ずつ実施)。土日も含めた毎日2時間の練習(練習室は学校が事前にすべて予約してくれました)。
- ・大学内で行われた器楽専攻のコンクール見学(協奏曲で伴奏はフルオケで声楽と器楽を隔年ごとに開催している模様)。

学内は学生証のようなものを機械にかざして入校する。そのカードが学生証でもある。学校初日にマイクロソフトで学校用のアカウントを作り、そこから教授などとメールもすることができ、学校からの一斉メール配信も受け取ることができる。また東京音大のユニパのようなアプリがあり、そこから毎日のスケジュールや、練習室の番号などを見ることができる。学校にはコピー機があるが、電子決済で、学校のアカウントを持っていないと支払えないため、短期留学中は使うことができなかった。そのため学校のそばの文房具屋さんでたびたびコピーしていた。

日本人はかなり少なく5人ほどしかいなかったが、声楽専攻で修士課程に日芸卒の先輩がいた。また、レッスン伴奏では東京音大からギルドホールに留学し、現在は伴奏助手のような形で勤務されている方がいたため、その方に学校初日からついていただき、学校説明や、レッスン中などは特に言語のことで困ることはなかった。

2. 留学を通じて自身が得た成果

新しい発声へのアプローチ。英語が得意ではなくともとりあえずわからないことがあったら質問してみる勇氣。自立心。海外留学への意欲。教授に勧められ、外部のコンクールも見に行ったが、そのコンクールは英語の曲が必須で、日本ではあまり演奏されない英語の曲を知るいい機会になった。自分の実技の問題点、立ち位置。教養。ギルドホールは現在イギリスの音大の中でも一番レベルが高かったようで、周りの生徒のやる気やレベルがとても高かった。

3. 反省点

もっと曲を暗譜していけばよかった。(ファイナルコンサートが20分もあるため。また、先生から急に曲を渡されたりして、そちらの譜読みに時間がかかった)。
クレジットカードの上限を、あまり使いすぎないようにかなり低くしていたため、少し焦ることがあった。航空券の苗字と名前を逆に登録していたが、ETAの方が正しく登録されていたことと、航空券の間違いはよくある事のように無事に搭乗することができた。3週間だけなので日本食は持っていく必要はないと思っていたが、現地は物価も高いうえに、どの食べ物がおいしいのかわからないため、節約のために持っていけるだけ持っていけばよかった。お菓子は持って行ったが、おいしいクッキーなどはあるため、お菓子は意外と困らなかった。

4. 今後の参加者に伝えたいこと(持ち物、事前学習等)

6か月前くらいから本番を見据えてたくさん曲を暗譜しておく。
服は5着くらい持っていく(上下3着ずつしかもっていかなかったため、途中から服を着るのが楽しくなくなり、また途中から急に暖かくなりだしたため、ユニクロで日本の二倍の値段で服を買う羽目になった)。また、靴は歩きやすいスニーカーと、フォーマルな場でも着用できるような(できれば演奏会でも使える)靴の2足あると問題は無いと思います。ロンドン私の体感ですがオーストリアに比べるとみんなおしゃれでした。
英語の相槌など短いフレーズをいくつか知っておくといいと思った。TOEICの単語帳に載っているような単語はほぼ使わない。それよりも、友達との会話で使えるような短いフレーズを知ってたらもっと楽しく会話ができたなと思った。
物価が高いので日本の食料を持っていったほうがいい(イギリスは、フルーツはおいしかったが、スーパーで売ってるような冷たい食べ物のは口に合いませんでした)。スマホのスリが本当に多いようで、スマホは本当にポケットに入れるなり、紐で結んでおくなりしたほうがいい。(友達の会話で当然のようにスマホとられた話題が出るくらいには多い。アジア人の女性はより狙われやすい)。
ギルドホールは英語の近現代的な曲も公演していた印象。オペラや歌曲でもかなり現代的な曲を演奏していた。ほぼ毎日のように演奏会が学校のホールで行われるため、興味が無いと思ってとりあえず行ってみることをお勧めする。演奏会の日程は実施要項に書いてあります。重要なことはほぼ実施要項に書いてあるのでしっかりと隅々まで読んでいたほうが良い。
アジア食はとても人気でいたるところにあるが、EATTOKYO以外はあまりおいしくない。フルーツやヨーグルトは安くおいしいので昼食には学校のそばにあるスーパーで買って食べていた。学校にもかなり小さなカフェテリアがあり、ここではサンドイッチ、パウンドケーキ、コーヒー、紅茶、水、スナック、フルーツなどが買える。また、ロンドンは電車はもちろんほぼすべての決済がカードのため、事前にカードの上限なども確認しておくべき。